会員随想

風に立つライオン(1) 柴田紘一郎先生

藤　村　健　夫

宮崎医科大学（現宮崎大学医学部）に入学して、初日の講義が終わった夕刻、緊張して柴田紘一郎先生の研究室のドアをノックしました。柴田先生は呼吸器外科医師で、第二外科助教授。私が、「風に立つライオン」を聞いて本学に入学したことを自己紹介すると、素敵な笑顔で、初対面の一人の新入生のために時間を作ってくださいました。

「風に立つライオン」を初めて聞いたのは、1987年6月、（今はもうない）東京厚生年金会館でのコンサートの時。アンコールに登場したさだまさしが「最後は未発表曲です。次のアルバムに入ります。尊敬する外科医の青春を歌いました。」と紹介して歌い始めたそれは、千鳥ヶ淵の夜桜、ビクトリア湖の朝焼け、キリマンジャロの白い雪、、、、などの言葉が散りばめられた壮大な曲でした。

医学部3年生10月からは臨床講義が始まり、待ちに待った柴田先生の講義は、満開の桜のスライドでスタートしました。「この講義は、カリキュラム改定で3年生10月の講義になりましたが、これまでは4年生の4月に始まっていました。ですので最初のスライドは桜です。人はまた来年の桜を見るために、これからの1年間をがんばって生きていくんですよね。」というイントロでした。その後も、「私の講義中に、学生の皆さんが居眠りするのはふつうのことですが、講義をしている私が居眠りすると、それは睡眠時無呼吸症候群です。」「キムタクも今はかっこいいですけどね、年をとると、あ～あキムタクも年をとったねぇなんて言われちゃうんですよ。」「この前、学生さんが問題集を持っていて、、、いい問題があるなぁ～って、よく見たら私の作った試験問題なんですよ。皆さん試験問題集めて製本してるんですね。すごいですね。」「やっぱり死ぬ時は腹上死が一番ですね。ウッ！って言ってね。」、、、さだまさしコンサート同様に会場（教室）大爆笑の柴田先生Live（講義）でした。

さだまさし宮崎公演終了後、柴田先生のはからいで、（さだまさし曰く）宮崎の場末のさだまさし行きつけのお店で、さだまさしと一緒に飲み、さだまさしの歌を歌ったことは、宮崎時代最高の思い出です。卒業後も、季節のご挨拶のたびに、いつも万年筆で直筆のお手紙をくださり、柴田先生の存在は、風に立つライオンの弟子を自称する私の医師人生の心の支えになっています。

2025年2月19日、師は亡くなられました。ご冥福をお祈りいたします。ありがとうございました。

（1）　作詞　作曲　さだまさし1987年7月25日発表　アルバム『夢回帰線』収録。長崎大学時代の柴田先生のケニア現地医療の経験談に触発されたさだまさしが創作した曲。歌詞カードには、「この歌を宮崎医大の柴田紘一郎先生に」と添えられている。後に『さだまさしベスト』に再収録され、歌詞カードには、「この歌を聴いて医師を志した学生が本学にも数名いる。」と柴田先生が寄稿されている。時を経て、この歌は、医療の道を志す者、海外で仕事をする人の応援歌になっている。